

編集後記

連日の茹だるがごとき炎暑にもうほとんど降参しかけてきた頃に、8月終り近くなってようやく平年なみの気温となったと報ぜられ申し合わせたように、朝夕はかそけくも秋の気配が忍び寄せてきたように感じられる。あらためて残暑の御見舞を申し上げる次第である。

本号では「四肢の先天異常とリハビリテーション」を特集した。先天異常にリハビリテーションはおかしいではないかといわれればその通りで、「リハビリテーション」といっても構わないが、「リハビリテーション」のもつ総合的なニュアンスをむしろ生かしたつもりであった。

杉浦氏は、四肢奇形の分類、疫学、各論的解説、治療等について一般的に述べられ、冒頭を飾った。次に筆者は、わが国におけるサリドマイド胎芽病発生の歴史的経緯をのべ、治療、リハビリテーションにまで及んだ。大瀧氏は、ADLよりもより社会的要素を取り入れた中学生の標準的生活動作をASLと名

づけて新しい概念とし、その訓練方法について巧みなイラストと共に具体的に述べた。

泉氏は財団法人「いしずえ」の事務局長である立場から、サリドマイド児の現在おかれていた実態を詳しいデータと共に説明し、今後の生活指導にまで言及した。渋沢氏は養護学校教諭の立場から、サリドマイド者、脳性麻痺者の主として大学進学に伴う諸問題を取りあげて下さった。四肢の先天異常というはじめての企画としては、各方面からの方々に参画して頂いて、かなり問題点に肉迫しえたように思う。

その他に長谷川氏・他の前骨間神経症候群、佐野氏の動作筋電図、二木氏のヨーロッパ諸国の障害者福祉の統計の3編があるが、いずれも教えられる所の多い力作である。

緒方氏は巻頭言で、リハに対する誤解がまだ多いので、啓蒙活動こそ急務であると述べられている。誠に御尤もな御意見であり、お互に努力を尽したいと念願するものである。

(土屋 弘吉)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖
千 野 直 一

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 関 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告(第6巻第10号)

特集 片麻痺のリハビリテーション

片麻痺の Biofeedback 治療法……………慶大リハセンター 石 田 暉・他
片麻痺とプラスチック装具……………鹿教湯リハ研究所 石 神 重 信
片麻痺のリハビリテーションと運動失調症……………七沢病院 福 井 関 彦
片麻痺の排尿障害……………神奈川リハセンター 宮 崎 一 興・他
片麻痺とけいれん発作(老年者における原因を中心として)

……………都養育院病院 山 之 内 博

講座 筋・神経系の電気診断(10)(H波および回復曲線)

……………近畿大学 井 奥 匡 彦

一頁講座 リハビリテーション用語集(4)……………聖母整肢園 紀 伊 克 昌